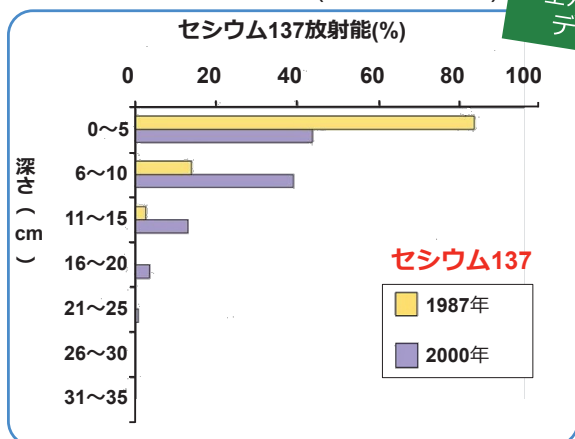


土壌中の分布

土壌中深度分布の経年変化 (全量を100%)

チェルノブイリのデータより



セシウム137は土壌に固定されて表層に長期間留まるため、農作物に吸収されにくい特性があります

出典：国際原子力機関 (IAEA) 国際チェルノブイリフォーラム報告書 (2006年) より作成

土壌中の粘土質はセシウムを強く吸着する性質を持っています。セシウムは、一旦粘土質に吸着されると水にとけにくくなることから、土壌に固定されて表層に長期間留まるため農作物に吸収されにくいという特性があります。

1986年に起こったチェルノブイリ原発事故の影響調査では、事故後14年経過しても、事故により降ったセシウム137の約80%が、表面から10cm内の所に留まっていることがわかりました。

セシウム137が表層にあることで、地表面よりも深くに根を生やしている植物では、物理的に根とセシウム137が隔てられていることとなります。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2015年3月31日